



根岸 子規庵 だより



寄稿

子規さんへの感謝 俳優 岩渕敏司

子規役をきっかけに子規庵へ

僕と子規庵との出会いは、二〇一七年に愛媛県で「正岡子規役」を演じるようになったことがきっかけです（愛媛県東温市・坊っちゃん劇場「52days」愚陀佛庵、二人の文豪〜）。

二〇一六年の秋、勉強のために訪れたその日は、とても良い天気で、小さな屋敷に大きなガラス戸、庭には本物の糸瓜が下がり、鶏頭が咲き、愛媛県で子規役を演じるといふプレッシャーを抱きつつも、とても穏やかな気持ちになったことを覚えています。庭に出たときには爽やかな風が顔を撫でて、「僕は歓迎されている」と感じたものです。あ、勘違いは、



この仕事に
おいて、と
ても大きな
原動力だと
信じていま
す（笑）。
子規役を
終えた後、
僕は素性を



明かさずに「宇宙の会」に入りました。子規役をやっていたことが知られた時に庵の皆さんから「えっこの人が？」と思われのではないかと怖かったのです（笑）。でもそれよりも何かお手伝いしたい気持ちの方が勝りましたし、僕の素性が明らかにになり、庵の皆さんの優しさ度が上がった気がして安心しました。

役者人生の支えとなった子規さん

二〇一九年には、東京から松山市に活動拠点を移しました。子規役の後もたくさん役をいただき、演じてきました。気づけば子規役から八年も経つのに、これほどまでに僕がお世話になっっているのは「子規さん」だけです。

移住前の二〇一八年の糸瓜忌には、子規庵で「帰ってきたノボさん」を、二〇二四年の糸瓜忌には松山市立子規記念博物館で「あしをなぐさめるものたち」を上演しました。それらの機会が、役者として生きていく自信を与えてくれました。

愚陀佛庵の再建が決定！

さて、子規さんファンのあなたに、大ニュースを。二〇二六年に松山市に愚陀佛庵が再建される予定です。愚陀佛庵とは、夏目金之助（後の漱石）が松山中学に赴任した際の下宿先であり、そこへある日子規さんが転がり込んで、その後、五十二日間にわたって共同生活を送っていたという二人の文豪にゆかりの深い場所です。元の住所に建つものではなくとも、本当に嬉しいことです。完成したら皆様もぜひ、新生・愚陀佛庵にお越しください。

最後に。実は僕、いつも庵を訪れるたびに、子規や、家族、仲間たちがここで賑やかに過ごしていた様子を、なるべくリアルに思い浮かべてから門をくぐるんです。その頃に少し近づける気がしますから、ぜひトライしてみてください。勘違いでも構わないのですから。



2024年糸瓜忌 歴史と絆を感じる特別展示を16日間開催



9月に糸瓜忌イベントを開催し、1000名を超える多くの皆様にお越しいただきました。2024年は、子規が現在の子規庵の地に住み始めて130年、そして空襲で焼けた子規庵の復興に尽力した「寒川鼠骨没後70年記念」という節目の年でした。期間中は、庵内の説明パネルや土蔵内での遺品・遺墨の特別展示を皆様に楽しんでいただきました。

今回の展示では、明治32年の元日に子規庵を訪れた人々が名前や句を記した新出資料「歳旦帳－新年第一声－」を初公開。自ら句を校正した筆跡を見ることができるとともに、子規の新出句は、今までに無い貴重な資料として新聞紙上でも多くの注目を集めました。

他にも、同じく初展示となる遺品「胸息」（子規が不自由な身体を支えとして愛用）や鼠骨から子規に贈られた地球儀などの品々に、大勢の来庵者が当時の様子を思い、子規を偲びました。

ホットココアでおもてなし 蕪村忌の資料展示

12月21日（土）と22日（日）の2日間、子規庵で蕪村忌展示を行いました。当時の資料を紹介し、来庵された方には子規が愛飲したココア（缶）をふるまいました。

与謝蕪村の命日である旧暦12月25日に因み、明治30年から始まった蕪村忌句会。明治32年の46名集合写真や「蕪」「風呂吹」の題での俳句の寄せ書き写真から、子規を囲む若い門人たちの熱気が伝わってきます。



ご来庵者向けに英語・日本語解説のQRコードを設置



子規庵の各部屋についてより詳しく知っていただくために、各所にスマホアプリで読み取る解説QRコードを設置しました。

「子規庵で花を活ける」5組の作品を週替わりで展示

2024年10月24日（木）から11月24日（日）まで5週間にわたり、季節の花の展示イベントを開催しました。東京都文化財ウイークに合わせた企画で、各週木曜から日曜までの4日間、5組の活け手が庵内を華やかに飾りました。

10月
24日～27日

草月流 渡辺社中
渡辺瑞春・高森千雀・浦田瑞栄



11月
7日～10日

いけばな小原流
一級家元教授 林有為子



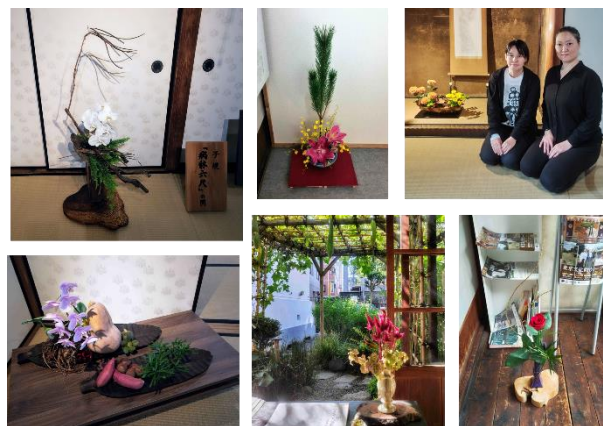
10月31日
～11月4日

根岸花ふじ 小幡昌弘一門



11月
14日～17日

いけばな小原流
木村理沙、大川真喜子



11月
21日～24日

茶道裏千家助教 内山宗富
花器 備前桃蹊堂 木村桃山



ご参加いただいた皆さん、お疲れさまでした！

エリア情報



根岸 花ふじ

子規庵のある地元根岸の歴史あるお花屋さん。季節の生花や枝物を豊富に取りそろえており、花束やアレンジメントも素敵です。

住所：東京都台東区根岸3-8-3
子規庵より徒歩5分

営業時間：9時～18時

URL：<https://negishi-hanafuji.hanatown.net/>

四千万人の春のことです



子規が上根岸八十二番地（子規庵）へ転居したのは明治二十七年二月。八月に日清戦争が勃発した年のことです。同じく二月、子規が編集長である家庭向き文芸新聞「小日本」1号が生まれました。陸羯南が社長兼主筆を務める新聞「日本」は政府への批判記事が多く、発行停止処分がしばしばであったので穴埋め用に苦肉の策として誕生したのです。ただ、中心となる子規は素直に喜びました。明治二十七年正月、子規が高濱虚子宛の年賀状に自筆で添えた二句の一句は次の通りです。

君が代や四千万人けさの春

自筆で、というのには、このはがきには印刷の部分があり、子規の印刷年賀状のはじめだと言われています。この頃すでに日本の人口は四千万人に達していました。「小日本」の責任者に決まった時、新聞を読む人の向こうに四千万人の人々が日本には居たのです。

「小日本」の話を叔父大原恒徳へ知らせたのは一月八日。手紙には、「絵入り小新聞を起す事に」なつたと書き、まだ秘密なので他言しないようにと追書きしています。また、喜びを知らせながら、「新聞屋」として多少衣服にも気をつかうので「着物代」を「至急御送金」下さいと、借金の申し出をしています。月給が三十円に昇給したとしても、新しい家への転居をひかえ、あれこれ慌ただしい子規さんの春でありました。



陸羯南

提供：松山市立子規記念博物館

御送金」下さいと、借金の申し出をしています。月給が三十円に昇給したとしても、新しい家への転居をひかえ、あれこれ慌ただしい子規さんの春でありました。

グッズ

<おすすめ> 子規庵でしか買えない
糸瓜柄の「トートバッグ」

温かみのある糸瓜の絵柄が魅力のトートバッグです。キャンバス素材を使用し、丈夫で長持ちします。耐久性が高く、日常使いに最適です。ぜひ、長くご愛用ください。

(黒) サイズ：縦 36×横 36×マチ 11cm

持ち手の長さ：約 54cm

(白) 袋サイズ：縦 36×横 29.5×マチ 0.4cm

持ち手の長さ：約 50cm



※製品の特性上、形状の違いが見られることがあります。

子規庵の維持・保存活動にご協力をお願いします

- 「子規庵宇宙の会」は、庵の営業や敷地内整備業務、イベント等を実務支援する公認ボランティアの会です。
 - 「子規庵友の会」は、会費の半分が子規庵保存会に寄付され、財政面から子規庵を支援する会です。
- ※各入会手続きは、子規庵内申込手続き、または HP から申込書を印刷、郵送申し込みで承ります。

子規庵のイベントや運営情報を
各種 SNS で発信中



子規庵
@shikian1

フォローを
お願いします！！



子規庵
@negishi_shikian



子規庵公式 LINE
LINE ID : @shikian